

県議会報告

県民主権社会を宝塚から！！

—あなたと出会えて本当によかった！—

〒665-0033 宝塚市伊子志3丁目6-25-202 TEL:0797-72-2130 <http://jito.jp>

Topic

➤ 兵庫県議会報告 Vol.7

- ブログより
- いたう順一プロフィール
- 決算特別委員会報告
- 第297回兵庫県議会報告



民主党

兵庫県議会議員 いたう 順一

ブログより

師走を迎え、本年もあと残すところわずかになりました。思い起こせば、北京五輪開催やオバマ次期大統領誕生など、明るいニュースや新しい時代を予感させる時代の変わり目を予感させる出来事もありましたが、中国製冷凍ギョーザやメラミン混入による中毒事件・道路暫定税率問題・後期高齢者医療制度問題・自殺者10年連続3万人超問題・チベット問題・四川大地震・秋葉原無差別殺傷事件・大阪引きずりひき逃げ事件・福田首相政権投げ出し他、社会を根幹から揺るがす事件や事案が相次ぎました。

特に、サブプライムローン問題に端を発する金融危機によって、世界恐慌も心配される中、日本経済は非常に難しい舵取りを要求される状況になっています。

輸出においても、消費大国アメリカへそしてヨーロッパへの製品輸出は激減するのは避けられないでしょうし、そこで、内需拡大が叫ばれていますが、公的年金や医療制度不信から、老後の不安による消費性向の減退・団塊の世代の現役引退による消費世代の絶対数の減少と可処分所得の低下により、国内消費を増やそうと思ってもなかなか厳しい状況であります。更に、雇用の問題や中小零細企業に対する貸し渋りの問題は緊急を要します。

今、日本が国内的に行うべき対策は、緊急の問題に対処しながら、現役世代の労働分配率を上げ、消費拡大を誘導すると共に、年金や医療や介護の問題を早急に解決し、老後の不安

いちむら浩一郎 衆議院議員（兵庫6区）**政権交代へ！！**

いたう 順一 プロフィール

46歳
血液型O型

学歴：1962年7月宝塚市生まれ／めぐみ幼稚園／宝塚第一小学校／宝塚第一中学校／高司中学校（中学2年生時に新設のため転校）／兵庫県立宝塚高校／立命館大学経営学部卒

職歴：1984年 大阪国税局に国税専門官として採用 尼崎税務署所得税課配属
1987年 大阪国税局退職・（有）阪神米油宝塚入社／現同社代表取締役

2007年4月 兵庫県議会議員選挙 トップ当選
※ '98年(社)宝塚青年会議所理事長 '05年～'06年第3期阪神北地域ビジョン委員会委員長 宝塚商工会議所議員 他ボランティア多数

家族構成：妻／長男（小5）／次男（小2）／三男（幼稚園年長組）5人家族
座右の銘： 忠恕知略 2002年兵庫県自治賞受賞

いたう 順一 ブログQRコード



携帯電話のバーコードリーダーで読み取ってください。日々更新中、いたう順一ブログにアクセスできます。

お陰様を持ちまして、ホームページのアクセス数が10万件を突破しました。いたう順一の活動や考え方は、ブログにてお伝えしています。

<http://jito.jp>

〒665-0033 宝塚市伊子志3丁目6-25-202

TEL: 0797-72-2130 FAX: 0797-72-2131

✉ tukuru@jito.jp

を取り除くことで、資産を持つ日本の高齢者や退職金を手にした団塊の世代の人々に消費をしてもらえるような政策が求められると同時に、環境を切り口に、屋上緑化・グラスパーキング・太陽光・コージェネ・エコカー等の利用促進を図り、環境問題に取り組むことによって内需拡大に繋ぐ施策や、農業を産業として考え、食糧の自給や雇用を創出して行かねばなりません。非常に多くの難しい問題を抱えています。人口は減少していきまますし、本格的高齢化社会を迎えますので、右肩上がりの拡大思考から転換させていかねばなりません。成長から成熟へという時代の中で、個人が公との関わりの中でどのような生き方をするのかが問われています。

拡大・成長こそが、何にも勝るとされたことから、自律して考えることが出来る個人が手を差し伸べあひながら社会を形成し、普段の生活を安心して楽しむことが出来る社会像を模索していかねばならないと考えます。

未だ、衆議院解散の時期は不明ですが、経済対策・社会保障制度改革・地方分権制度改革・農業問題他、たくさんの重要な問題を先送りしてきた結果、多くの制度疲労が起っています。

過去のしがらみから日本を解き放ち今後100年持つ体制作りの基本を指し示すことが求められます。その為には、政権交代を果たし一度仕組みを変えてみる事が重要であり同じ党内で人事異動を繰り返しても抜本的な解決をつけるのは難しいでしょう。

今日本は新しい力が必要です。その為には政権交代しかないと確信します。閉塞感に満ちた世の中を打破し、将来に夢が持てる社会の実現を、生活者の視点に立ち邁進して参ります。